

# ホロー荘の殺人 THE HOLLOW

2004年作品

製作:マーガレット・ミッチェル      監督:サイモン・ラングトン      脚本:ニック・ディア  
日本語版プロデューサー:里口 千      日本語版演出:藤南 勝之      日本語版翻訳:宇津木 道子

出演:

エルキュール・ポワロ … デビッド・スーシェ/熊倉 一雄

※ ※ ※

ジョン・クリストウ … ジョナサン・ケイク/原 康義

ヘンリエッタ・サバナーク … メーガン・ドッズ/日野 由利加

ルーシー・アンカテル … サラ・マイルズ/藤田 弓子

ガジョン … エドワード・フォックス/小林 勝也

ガーダ・クリストウ … クレア・プライス/相沢 恵子

ヴェロニカ・クレイ … リゼット・アンソニー/一柳 みる

グレンジ警部 … トム・ジョージソン/たかお 鷹

サー・ヘンリー・アンカテル … エドワード・ハードウィック/有川 博

ミッジ・ハードキャッスル … キャロライン・マーティン/吉川 亜紀子

エルシー・パターソン … テレサ・チャーチャー/雨蘭 咲木子



©Agatha Christie Ltd (a Chorion Company) 2004

サー・ヘンリー・アンカテルが住むホロー荘には芸術家のヘンリエッタをはじめとする親類が集まっていた。アンカテル夫人からランチに招待されたポワロはホロー荘で、親類のひとりガーダが銃撃された夫ジョンを前に銃を手にして立ちすくみ、それをアンカテル家の人々が囲む姿を目撃する。ジョンの女性関係、2丁の銃、芝居のような事件現場…秘密と謎を明らかにしながらポワロは、拭えぬ違和感の正体と事件の真相に近づいていく。

## ◆己が運命に立ち向かう女たち

『五匹の子豚』から本話まで、“大転換”直後にマーガレット・ミッチェルが製作を担当した4作品に共通するテーマは、その主人公が“人生の悲しい運命に立ち向かう女性”の物語であること。更に言えば、物語の一人称も彼女らであり、ポワロはその視線の内に舞い降り、真実と云う残酷だが尊いものをもたらす賢者と云った役回りです。

本話の主役は、愛人ジョンの使命と才を敬い、その妻ガーダにさえ好感を寄せる現代的な女性ヘンリエッタ。ジョン銃撃直後の場に居合わせた彼女は、ポワロも知らぬ何かを心に抱き、その捜査を阻みます。それもまた、己が運命に立ち向かう女の生き様でしょうか。ラストシーンが印象的です。

## ◆原作通りの設定

本話の原作について、クリスティは自伝で、いつも通りポワロを登場させたのは失敗だったと綴っています。彼はその役目を果たしてはいるが、彼を外した方が物語はもっとよくなっていたであろうと、実際、後の戯曲化に際してはポワロを外した形で発表しています。ドラマ化された本話におけるポワロの必然性はさて、いかがなものでしょう。

ちなみに、ドラマでは科白として語られなかったものの、ポワロの別荘は原作通りレストヘヴンと名づけられています。気付きにくいものの、物語の序盤で荘に到着したポワロが車を降りる際、門の表札に“RESTHAVEN”と掲げられているのが見られます。

## ◆ワトスンとジャッカル

サー・ヘンリー・アンカテルに扮するは、ジェレミー・ブレット主演『シャーロック・ホームズの冒険』シリーズで、デビッド・バークの後任としてワトスン役を務めたエドワード・ハードウィック。さすがにワトスンより齢を重ねた風格です。日本語吹替はワトスン役の福田 豊土氏ではなく、有川 博氏。柔和で誠実な英国紳士を演じています。

威厳ある英国執事ガジョンを演じてみせたのは、劇場映画『ジャッカルの日』(1973)における暗殺者ジャッカル役の好演他、『ナパロンの嵐』(1978)、『ガンジー』(1982)、『ネバーセイ・ネバーアゲイン』(1983)など名作話題作に出演しているヴェテラン個性派エドワード・フォックス。芸能一家の長男で、前話『ナイルに死す』レイス大佐役の名優ジェームズ・フォックスの兄でもあります。